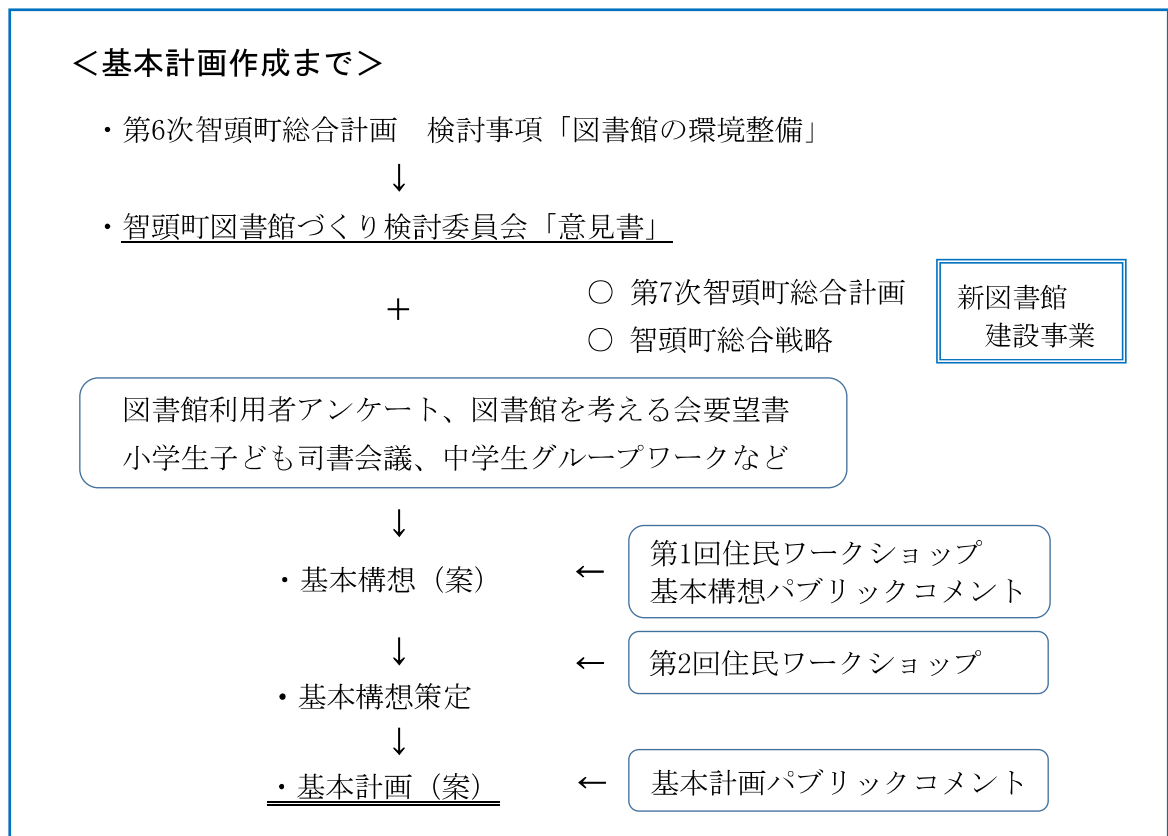


はじめに

智頭町では、平成29年度を初年度とする「第7次智頭町総合計画」を策定し、「一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」を将来像に、ちづ暮らしの道しるべを示しています。この総合計画及び、平成27年8月に策定した「智頭町総合戦略」の重点施策のひとつとして、新図書館建設事業を掲げています。

「智頭町立智頭図書館整備基本計画」（以下「基本計画」）は、こうした背景を踏まえ平成29年12月に策定した、新しい図書館のありたい姿を示す「智頭町立智頭図書館整備基本構想」（以下「基本構想」）をもとに、新しい図書館についての具体的な計画を示したもので、今後の新図書館整備の基礎資料となるものです。

子どもから大人まですべての住民がさらに図書館に親しみ、集い、つながり、学びあい、10年後、20年後にもあって良かったと思える図書館を実現するため、ここに住民とともに作り上げてきた本計画を示すものとします。



1 新図書館の基本方針

変化の激しい現代の社会において、知識や情報を活用する能力、問題を発見し解決する力といった、自ら未来を切り拓く「生きる力」の育成は重要であり、子どもだけでなく大人自身も、図書館の機能を活かすことで、暮らしや仕事を豊かにする可能性が広がります。

本町においても、その必要性から新図書館建設にあたり、基本構想で以下のような「基本コンセプト」、そしてそれを実現するための「図書館の役割」と「智頭図書館のありたい姿」を掲げました。

(1) 基本コンセプト

「智恵と和の広がる図書館 ～であい、つながり、まなびあう～」

智頭町には、豊かな文化や伝統、誇れる歴史があり、そこには智頭の人たちが知識や情報を活用してきた知恵があります。図書館で、その「智頭の人たちの知恵」と「和」が広がり、多くの人たちがつながる、学びあう図書館でありたいとするものです。

(2) 図書館の役割

1. 「人と情報」「人と本」が会う地域の知識・情報の拠点となる

住民の「知りたい」「読みたい」という求めに対し、必要となる資料、情報を提供し、地域の知識・情報の拠点として機能していきます。

2. 住民の生涯にわたる学びを支援する

子どもから大人まですべての住民の「学びたい」という思いに寄り添い、資料や情報、場を提供します。

3. 地域の歴史、伝統、文化に関する資料を収集し、世代を越えて継承する

智頭町の人々が築いた歴史、伝統、文化についての資料を収集、保存、提供し、世代を超えて継承します。

4. 暮らしに役立ち、新たなチャレンジを応援する

住民の希望、夢、疑問、課題などについて、必要な資料や情報を提供し、暮らしに役立つ図書館として、新たなチャレンジを応援していきます。

5. 子どもから大人まですべての住民が和み、憩い、楽しむ、交流の場となる

豊かで幸せなちづ暮らしの一翼を図書館が担い、子どもから大人まですべての住民が和み、憩い、楽しむ、交流の場となることを目指します。

(3) 智頭図書館のありたい姿

新図書館は、前項で掲げた図書館の役割を果たしつつ、智頭町の良さを活かしながら、まち全体における暮らしを支える拠点として、次に掲げる図書館サービスを提供するよう努めます。

誰もが知識・情報にふれることができる



- ・利用しやすい図書館とするため住民に対し、利用をサポートするサービスやシステムを考える
- ・まちづくりの拠点として、住民の多様な活動ができる場となる

子どもの未来を創造する



- ・智頭町の未来を担う子どもたちの可能性が図書館での出会いにより広がる
- ・智頭町の子どもたちがよく利用する学校図書館を支援する

地元の暮らしを支える



- ・智頭町の基幹産業である林業、農業をはじめ、暮らしのあらゆる場面でヒントとなる
- ・土曜日、日曜日にも利用できる公共施設として、気軽に相談できる窓口となる

世代を超えた住民の居場所を確保する



- ・子どもから大人まで様々な思いを抱えた住民の居場所となる
- ・緑豊かな智頭町になじんだ、ゆっくり、ゆったりと、時を過ごせる場となる

（４）新図書館を利用する住民の姿

第2回住民ワークショップ～みんなで考える「私たちの新しい図書館」～では、住民が新しい図書館をどのように利用するのか」というストーリーを参加者で考え、具体的な利用場面、図書館サービスを描いていただきました。

その利用ストーリーや基本構想（案）に対し寄せられたパブリックコメントをもとに、以下のとおり利用対象者別のサービスを示します。



第2回住民ワークショップ
利用ストーリーづくり

<乳幼児と保護者>

この時期における新しいこととの出会い、豊かな体験は、子どもたちにとって大切な生きる力となり、図書館を利用することで、その機会は広がります。

保護者にとっては、子どもとともに休日を過ごす場として、子育てに役立つ情報や資料が得られる場として、そして同じ子育て世代の人たちとの出会いの場にもなります。

また、祖父母にとっても、孫と時間を共有し、絵本を楽しむ憩いの場となります。

○具体的な図書館事業

- ・7ヶ月乳児健診での「ブックスタート※」
- ・子育て支援センターと連携した「おはなし会」
- ・保護者を対象にした「子どもと本を知る講座」
- ・子育てコーナーの設置 など



・本との出会いが、
子どもたちの育ち
を豊かにする

※ ブックスタート事業

1992年イギリスで始まった運動。本町では、7ヶ月乳児健診の際に絵本2冊などを入れたブックスタートパックを手渡し、親子でふれあいの時間を持つことをすすめています。

<小学生、中学生>

子どもたちが読書に親しむ場として、調べ学習などの学びの場として、子どもたちの「読みたい、知りたい、学びたい」気持ちに寄り添います。

そして、子どもたちが好きなことを見つけ、夢が膨らむ助けとなるなど、図書館が身近で楽しい場所となり、子どもたちにとっての居場所となります。

また、子どもたちが学校生活の中でよく利用している学校図書館と連携し、必要な資料、情報を提供します。

○具体的な図書館事業

- ・学校図書館との連携 「資料提供」 「おはなし会」 「ブックトーク」 など
- ・「中学生職場体験学習」 「小学生施設見学」 の受入
- ・「図書館まつり」
- ・夏休み「子ども司書体験教室」
- ・夏休み「自由研究おたすけ教室」 など



・図書館での出会い
が子どもたちの可
能性を広げる

<高校生、大学生>

読書を楽しむ場として、学習をする場として、そして将来を考えると時の一助となる情報や資料を得る場として、図書館を利用できます。

多くの高校生、大学生が町外へ進学していますが、今後、新しい図書館が高校生、大学生の行ってみたい場所になり、友達との集いの場となることを望みます。また、地元の高等学校に通学する高校生にとっても、学校外での活動の場、居場所になりえます。

○具体的な図書館事業

- ・Wi-Fi（インターネット接続）を整備した学習スペースの提供
- ・グループ学習が可能な学習室の設置
- ・ティーンズコーナー（中学生も対象）の充実
- ・県立高等学校との連携 など



・高校生、大学生が
集う場所が地元
にできる

<一般成人>

図書館で、読みたい本を借りるのはもちろんですが、暮らしに役立つ情報、仕事や学びに活かせる資料を得ること、そして、住民の多様な活動の地域拠点としても図書館を利用することができます。

図書館で行われる「音読教室」「講座」に参加することや、図書館でたまたま手に取った本で、生活が豊かになる方もあると思います。また、誰かとつながる出会いの場として、時には一人になり自分の時間を楽しむ居場所としても図書館を利用できます。



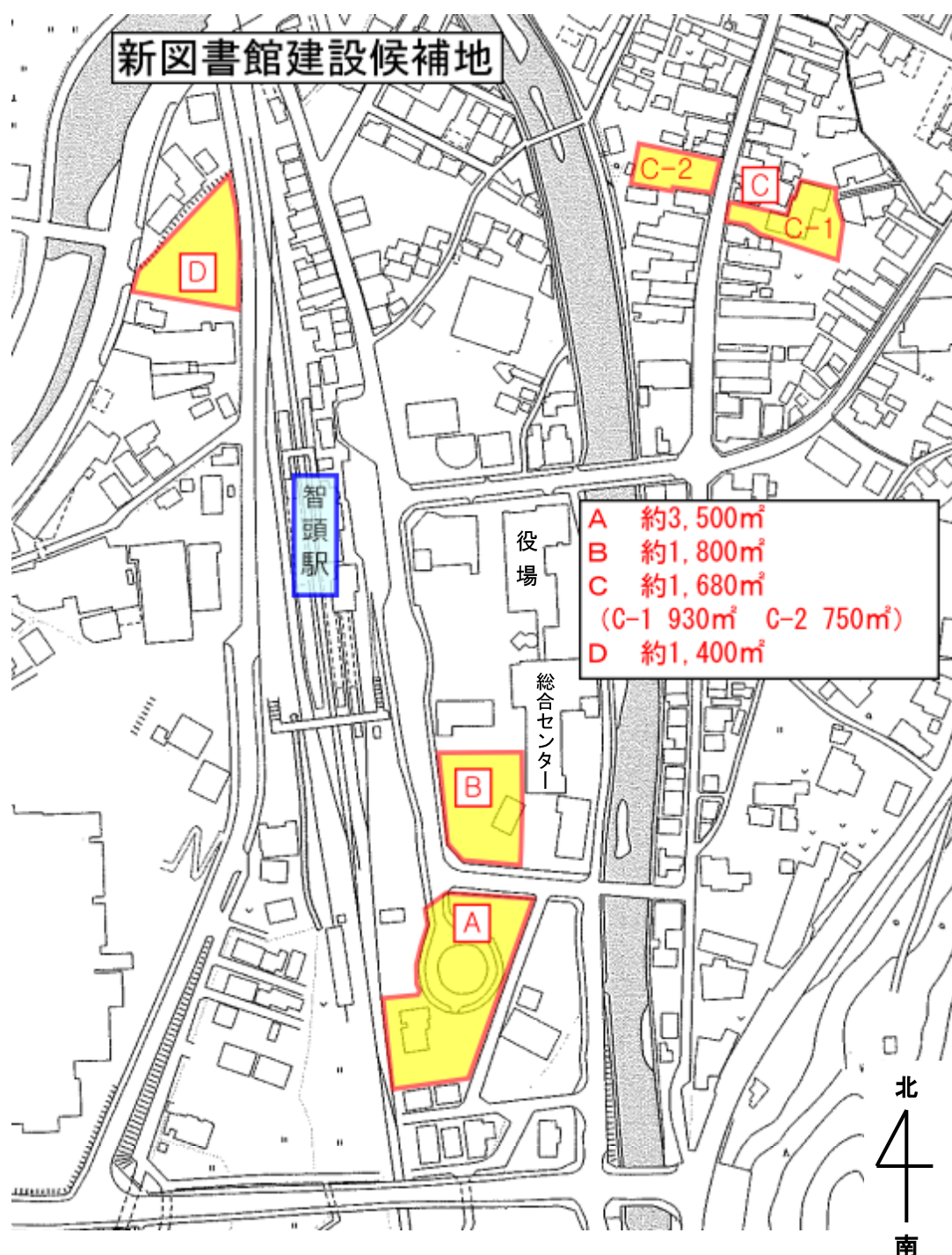
- ・自らの可能性を広げる場となる
- ・思い思いに時間を過ごす場となる
- ・人と人との交流から新しい知恵や知識、情報が生まれる

2 新図書館の建設計画

(1) 新図書館の建設場所

基本構想では、新図書館の望ましい建設予定地を「交通の便が良い場所」「建設に必要な面積が確保できる利便性が高い場所」「子どもから高齢者まですべての住民が利用しやすい場所」とし、智頭駅周辺の4箇所を建設候補地として検討してきました。

(下記新図書館建設候補地図：候補地4箇所をA、B、C、Dにて表示)



第1回住民ワークショップ～みんなで考える「私たちの新しい図書館」～では、参加者の皆さんに、この4箇所の建設候補地を歩いていただき、新図書館における、まちの魅力や建設予定地について話し合いました。

その意見と基本構想（案）に対して住民の皆さんからいただいた意見（パブリックコメント）を集約し、次の場所を新図書館建設予定地として決定しました。



第1回住民ワークショップまち歩き

◆ 建設予定地について

- 場所 智頭駅南側、現バスロータリーと周辺駐車場（候補地A）
- 面積 約3,500 m²
- 選定理由
 - ・ 智頭駅、すぎっ子バスターミナルが近くにあり、交通の便が良い。
 - ・ 土地が広く、新図書館建設に必要な面積、駐車場が確保できる。
 - ・ 役場や病院など、町の主要施設に近く、利便性が高い。
 - ・ 土地の広さを活かした、智頭の自然を感じることができる住民の居場所づくりが可能である。

などの点から、総合的に評価を行い、建設予定地を決定しました。

今後、この場所を建設予定地として新図書館建設事業を進めていきます。

（すぎっ子バス駐車場は、別の場所になります。）



智頭駅南側、現バスロータリーと周辺駐車場

※ 検討をしてきた智頭駅周辺の4箇所の候補地について、住民ワークショップでの意見など、次表のとおりメリット、デメリットについてまとめています。

候補地	メリット	デメリット
A	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭駅、すぎっ子バスターミナルが近くにあり、交通の便が良い。 ・土地が広く、新図書館建設に必要な面積、駐車場が確保できる。 ・役場や病院など、町の主要施設に近く、利便性が高い。 ・土地の広さを活かした、智頭の自然を感じることができる住民の居場所づくりが可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぎっ子バスの駐車場が別途必要となる。 ・候補地内にある「日本の家」への対応費用が必要となる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭駅、すぎっ子バスターミナルが近くにあり、交通の便が良い。 ・役場や病院など、町の主要施設に近く、利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・候補地内にあるマイクロバス車庫が別途必要となる。 ・現在でも十分ではない役場裏駐車場が、今以上に不足する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭駅、すぎっ子バスターミナルが近くにあり、交通の便が良い。 ・図書館が建設されることにより、まちづくりの拠点として商店街が活性化する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・候補地が道路により二分されており、間口が狭く、駐車場への行き来など安全面に問題がある。 ・候補地への道路(一方通行)は狭く、冬期の交通アクセスに困難が予想される。 ・民家が隣接しており、対応費用が別途必要となる。 ・私有地部分の土地購入費が必要となる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭駅、すぎっ子バスターミナルが近くにあり、交通の便が良い。 ・役場や病院など、町の主要施設に近く、利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地面積が狭いため、目標延床面積、駐車場の確保が難しい。 ・近くに鉄道(踏切)があるため、安全面、防音対策など配慮する必要がある。 ・私有地のため土地購入費が必要となる。

(2) 施設整備、機能配置の方針

新図書館は、ユニバーサルデザインに配慮した安心、安全な施設で、維持管理を考慮し経済性に優れた造りであることが重要です。自然豊かな智頭町の環境に合う、利用者が木の温もりを感じながら快適に過ごせる図書館を目指します。

そして、図書館に必要な多様な機能がつながりを持ちながら、それぞれの目的を果たすように整備する必要があります。住民が思い思いに図書館での時間を楽しみ、憩い、集い、交流するまちの拠点としての整備計画が求められています。

① エントランス

- 館内案内
- 情報掲示スペース（住民利用、図書館運営用）
- 図書返却ポスト
- 入館者数カウンター装置 等
 - ・新図書館の玄関として、明るく開放的であり、誰もが入りやすい空間になるように配慮します。
 - ・分かりやすい館内案内や住民も利用できる情報掲示スペースを設置します。

② 一般開架スペース

- 一般図書・地域資料・視聴覚資料開架スペース
- 閲覧スペース（利用に対応した机、椅子を設置）
- 新聞・雑誌コーナー
- カウンター（貸出・返却・案内・問合せ・相談） 等
 - ・開架スペースには、幅広い魅力的な蔵書を配置し（一般図書・地域資料・視聴覚資料など）、閲覧スペースには、様々な利用に対応した机、椅子を設置します。
 - ・速報性と多様性を持つ情報が得られる新聞・雑誌は、ブラウジングコーナー※を設け、住民が活用しやすいようにします。
 - ・子どもから大人まで、様々な利用を想定したカウンターを設置します。

※ ブラウジングコーナー

本棚を眺めながら、気になる本を手にとってめくり、気軽にくつろぎながら本を読むことが出来る空間。新図書館では、新聞・雑誌などを配置予定。

③ 児童開架スペース

- 児童図書開架スペース
- 閲覧スペース（利用に対応した机、椅子を設置）
- おはなしの部屋
- 乳幼児コーナー（授乳室、子ども用トイレ）等
 - ・ 図書館を訪れた子どもたちが、様々な本との出会いを楽しみ、子どもたちの夢や可能性が広がるスペースを設けます。
 - ・ 子どもたちの利用を考慮した、書架や机、椅子を設置し、おはなしの部屋や乳幼児に必要な授乳室、子ども用トイレを設置し、子育て世代が利用しやすいスペースを整備します。

④ 閉架スペース

- 書庫
 - ・ 利用者の求めに対し、職員が迅速に業務を行える設備と配置を検討します。

⑤ 学習スペース

- 個別学習コーナー
- グループ学習室・ボランティア活動室
 - ・ 個別の学習に対応した、Wi-Fiを整備したスペースを設け、学びの場を提供します。
 - ・ グループで利用できる学習室、ボランティアが活動できるスペースを設けます。スペースは、防音ガラスなどで周りとは仕切りを作るなど、防音に配慮します。

⑥ 共用スペース（職員共用）

- トイレ、洗面所
- 給湯室
 - ・ トイレ、洗面所は、多目的トイレを設けるなど、誰もが使いやすい空間とし、利用者の動線を考慮した場所に設置します。
 - ・ 給湯室は、「交流コーナー」とつながりを持ち、住民と職員が共用できる配置とします。

⑦ 管理スペース

- 事務室
- 作業室
- 設備室

- ・管理、運営スペースとして、事務効率に適したスペースを確保し、施設全体における職員の業務動線を考慮した配置を検討します。

⑧ 多目的スペース

- 展示スペース
- 交流（談話、飲食）コーナー
 - ・住民が特技や趣味を表現する展示ギャラリーとして、和み、憩い、楽しむ、交流の場として、個の居場所として、講演会や講座の開催にも対応する、多目的に機能するスペースを設けます。

⑨ 広場、軒下

- 芝広場
- 軒下スペース
 - ・子どもだけでなく、大人も交流を楽しめる、憩いの芝広場を設けます。芝広場は、「軒下スペース」とつながりを持った配置とし、住民の集いの場となることを想定しています。
 - ・軒下スペースは、「芝広場」「交流コーナー」とつながりを持ち、多目的に活用ができるように整備します。

⑩ 駐車場、駐輪場

- 駐車場、駐輪場
 - ・想定される利用者数に応じて駐車場、駐輪場を整備します。
 - ・身体障がい者等用駐車場を図書館の入口近くに設置します。設置に当たっては、駐車場から入り口までのアプローチにも配慮します。

※その他

図書館から離れた地域への巡回サービスである自動車図書館（BM）は、智頭町全域へのサービスの観点からは必要と言えますが、新図書館では、この自動車図書館に代わるサービスを検討しています。

現在、行っている各地区公民館への貸出と併せ、遠隔地、また図書館への来館が困難な方へのサービスを検討します。

(3) 施設規模と各部門の機能

基本構想では、新図書館の施設規模算出に当たり、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について（報告）」の「参考資料（2）数値目標の例」による算出※1と「公立図書館の任務と目標」による算出※2を参考とし、次の値を目標値として掲げています。

以下、この目標値をもとに具体的な計画について検討しました。

	目標値
延床面積	約1,000m ²
蔵書冊数	約70,000冊
開架冊数	約50,000冊
資料費	約5,000,000円
年間増加冊数	約3,000冊
職員数	5人

<参考>

	公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準による算出	公立図書館の任務と目標による算出	智頭図書館 (平成29年4月1日現在)
延床面積	926m ²	1,085m ²	222m ² (事務室、トイレ等含まない)
蔵書冊数	54,835冊	67,630冊	46,060冊
開架冊数	45,889冊	49,175冊	30,568冊
資料費	10,182,842円	10,079,600円	3,373,379円
年間受入冊数 年間増加冊数	(受入) 4,478冊	(増加) 5,606冊	(受入) 2,218冊
職員数	5人	6人	4人

・資料費、年間受入冊数は平成28年度実績

※1「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について（報告）」による算出

生涯学習審議会社会教育分科審議会計画部会図書館専門委員会

全国の市町村（政令指定都市及び特別区を除く）の公立図書館のうち、人口1人あたりの「資料貸出」点数の多い上位10%の図書館の平均数値を算出したものです。算出の基礎データは「日本の図書館1999」が使用されています。

※2「公立図書館の任務と目標」による算出 日本図書館協会図書館政策特別委員会

人口段階別の貸出密度（＝貸出冊数÷人口）上位10%の自治体の実績値を基準値と読み替えてあります。算出の基礎データは「日本の図書館2003」が使用されています。

各部門の機能及び規模については、基本構想で目標とした延床面積約 1,000 m²、蔵書約 70,000 冊（開架 50,000 冊、閉架 20,000 冊）をもとに、住民ワークショップ、パブリックコメントでの「多目的スペース」への要望を取り入れ、次表を目安とし、今後計画を進めていくものとします。

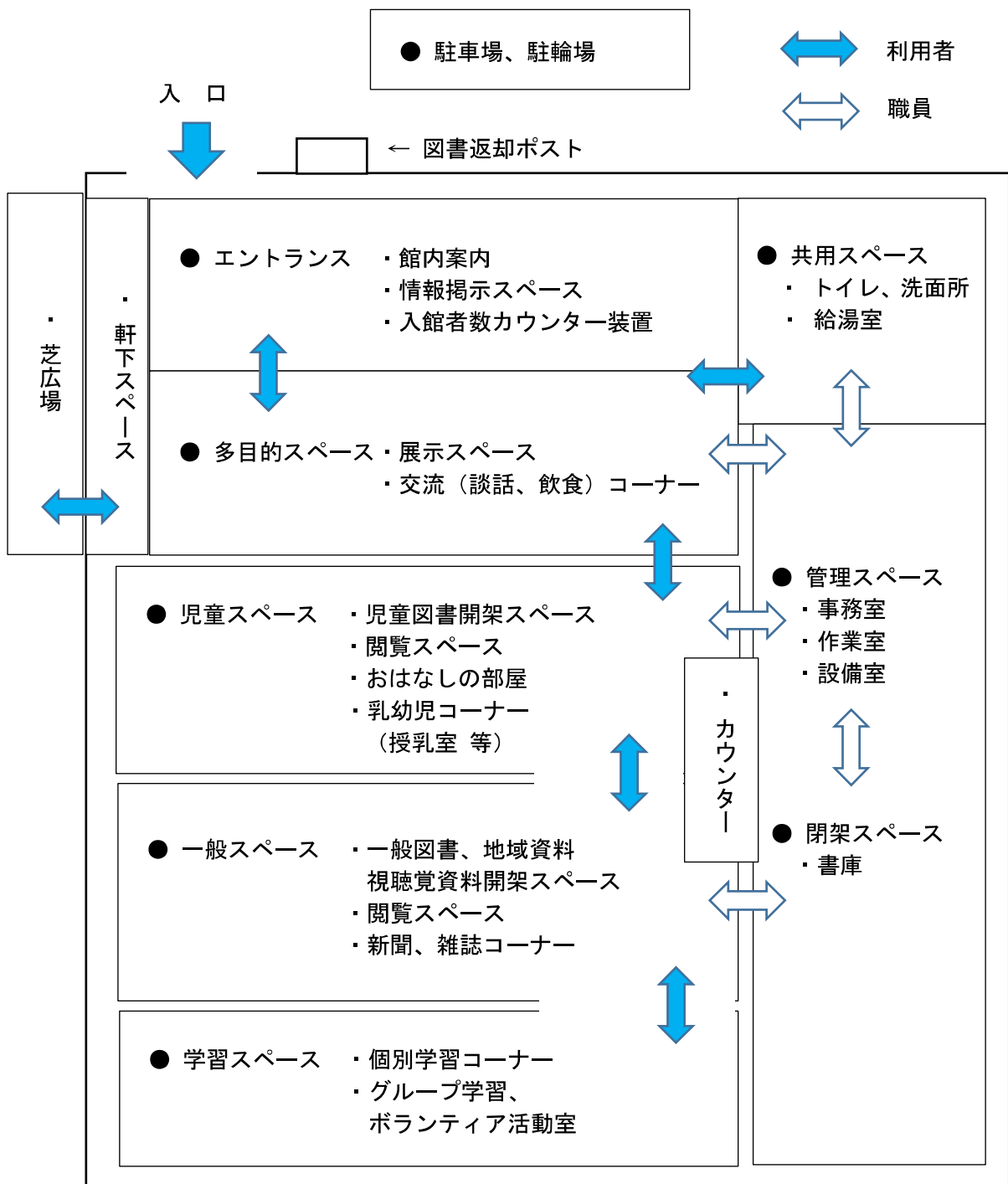
部門	機能	面積
① エントランス	館内案内、情報掲示スペース等	約 50 m ²
② 一般開架スペース	一般図書・地域資料・視聴覚資料、閲覧スペース、新聞・雑誌コーナー、カウンター等	約 360 m ²
③ 児童開架スペース	児童図書、閲覧スペース、おはなしの部屋、乳幼児コーナー等	約 240 m ²
④ 閉架スペース	書庫	約 70 m ²
⑤ 学習スペース	個別学習コーナー、グループ学習・ボランティア活動室	約 100 m ²
⑥ 共用スペース	トイレ、洗面所、給湯室、	約 80 m ²
⑦ 管理スペース	事務室、作業室、設備室	約 100 m ²
計		約 1,000 m²
⑧ 多目的スペース	展示スペース・交流（談話、飲食）コーナー	約 150 m ²
計		約 1,150 m²
⑨ 広場、軒下	芝広場、軒下スペース	
⑩ 駐車場、駐輪場	駐車場、駐輪場	

※ 開架スペースは、100 冊あたり 1 m²を目安にし、開架冊数：約 50,000 冊（一般 30,000 冊＋児童 20,000 冊を想定）÷100 冊×1.2（カウンター、各種コーナー考慮）＝600 m²

※ 閉架スペースは、標準 6 段書架を想定し、300 冊あたり 1 m²を目安にし、閉架冊数：約 20,000 冊÷300 冊≒67 m²

(4) 施設の構成イメージ

施設内の各機能は、利用者にとって使いやすく、職員にとって働きやすいように構成されることが図書館の機能を十分に発揮することにつながり、住民にとって利用しやすく、親しみのある、心地の良い図書館となりえます。



(5) サイン計画

図書館のサインには、施設の案内サインや誘導サイン、利用に関する説明サインなどがありますが、これらは、誰にとっても見やすく、分かりやすいことが重要です。また、施設全体として統一感があることや新図書館の方針を踏まえたデザインであることが大切だと言えます。

サインの設置に当たっては必要に応じ、効果的な場所に、表示の大きさやデザインなど、様々な検討をする必要があります。新図書館では、建設段階からサイン計画をたて、住民が利用しやすい図書館としてサインが機能するよう整備します。



<分かりやすいサインの事例>
瀬戸内市民図書館
「あかちゃんのへや」

(6) 設計者の選定方法

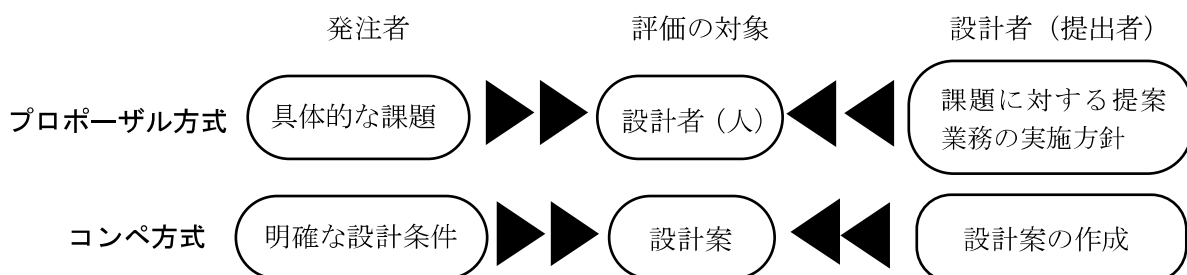
新図書館では、住民が主体的に様々な活動を展開することを想定しており、今後、目指す姿を実現させる機能、サービスを具体的に住民と検討していく必要があります。そのため、住民とともに考え、図書館づくりを進める本町において、設計者の選定方法は、「競争入札方式」や「設計協議（コンペ）方式」ではなく、設計者が選定されてから本格的な設計の検討ができる「プロポーザル方式」が適切であると言えます。

智頭町の図書館づくりを、私たちとともに進めていく設計者を総合的に選ぶことができる「プロポーザル方式」を採用し、今後も住民参加プロセスを通じて図書館づくりを進めていきます。

○ 国土交通省大臣官房官庁営繕部「プロポーザルを始めよう！一質の高い建築設計の実現を目指して―」（平成20年8月）から抜粋

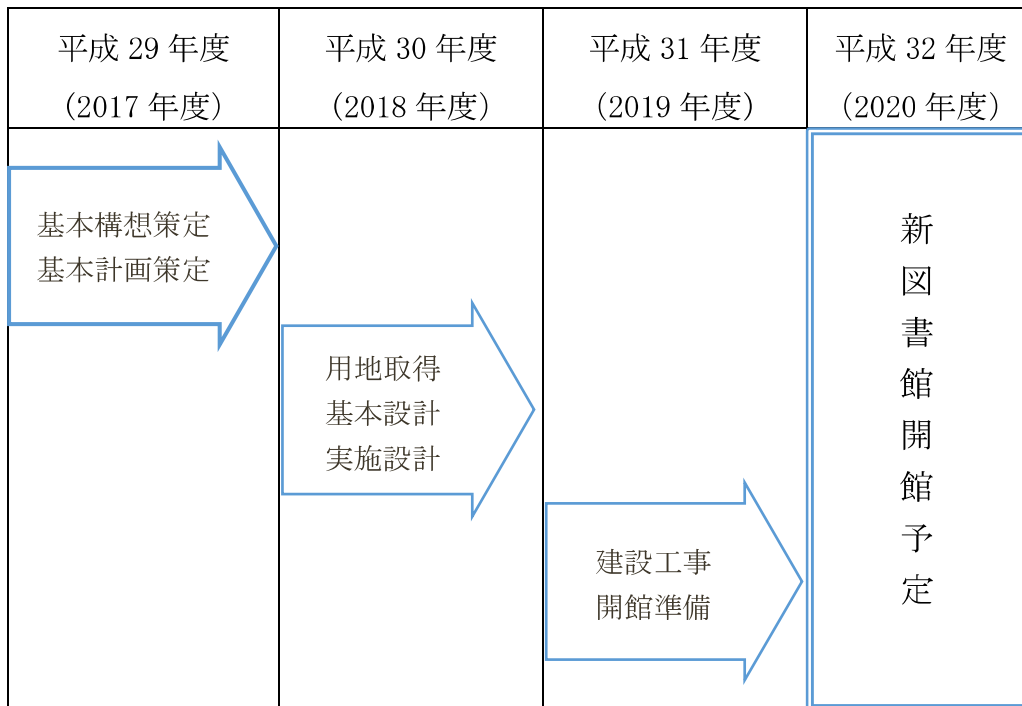
■ よい建築の実現のためには、最適な設計者の選定が重要です。

「コンペ方式」は、最もすぐれた「設計案」を選ぶ方式です。これに対して「プロポーザル方式」では、最も適した「設計者（人）」を選定します。



(7) 新図書館の建設スケジュール

建設スケジュールは、平成 32 年度の新図書館開館を想定しています。
平成 29 年 12 月に基本構想を、平成 30 年 3 月に基本計画を策定しました。



3 新図書館の管理・運営計画

図書館が継続性のある安定した管理運営をしていくため、また、住民の暮らしに役に立ち、学校図書館を支援する施設として機能するためには、町が直接、図書館を管理運営していくことが望ましいと考えます。

そのためにも、職員配置の充実と体制づくりは重要になり、また職員だけでなく住民が自主的、自治的に図書館に関わり、新しい図書館がまちの中心として賑わうための管理、運営を検討します。

(1) 蔵書計画

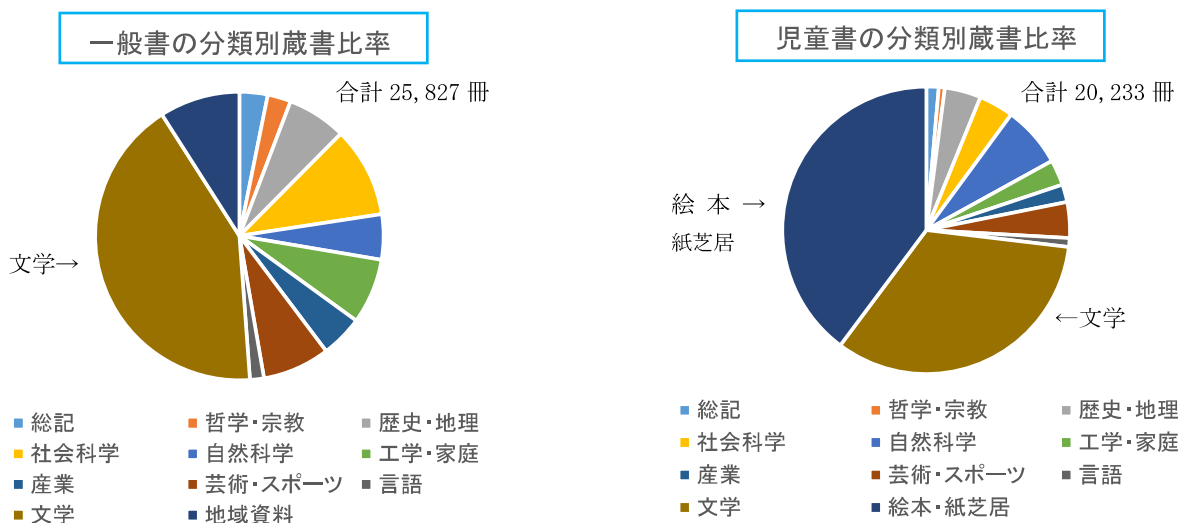
新図書館の蔵書を構成する資料をどのように選定するのかは、図書館サービスの重要な事項であり、多様化する住民の要望と現在の蔵書構成を鑑みて、開館前に計画的に資料を収集する必要があります。

新図書館の基本方針に掲げたサービスを提供するためには、幅広く魅力的な蔵書構築に努めなければなりません。住民が何を求め、今後、智頭町の図書館にどのような資料が必要になるのかを検討し、選定する必要があります。

また、地域資料の収集には重点を置き、特色あるコーナーとして「森林コーナー」「智頭急行コーナー」「米原万里コーナー」などを設置するための資料を収集します。

基本構想では、新図書館の蔵書冊数を、約70,000冊としているところですが、平成32年度の新図書館開館時には、約50,000冊の蔵書構築を目指し、開館後7年で約70,000冊の蔵書達成を目標とします。

<現状>・蔵書数 46,060冊（一般書 25,827冊、児童書 20,233冊）※雑誌、AV含まない



※ 現在、蔵書の見直しを進めていますが、全体的に児童書、分類では文学が多く、学習や暮らしに役立つ資料が少ないなど蔵書に偏りが見られます。

(2) 開館時間、休館日

平成27年8月に実施した図書館利用者アンケートの「閉館時間を遅くしてほしい」との要望を踏まえ、平成28年度から、平日（火～金曜日）の開館時間を18時までに30分延長し、利用状況を調査しています。今後の利用状況を考慮した上で、更なる開館時間の延長を検討します。

休館日については、一定の休館日と蔵書点検などの定期的な資料整理のための休館日が必要なため従来と同様とし、今後、多様化する住民の生活を考慮し、必要に応じ検討することになります。

<現状> ・開館時間

火曜日～金曜日	午前9時30分～午後6時
土曜日、日曜日	午前9時30分～午後5時30分

- ・休館日：毎週月曜日、祝日、毎月最終木曜日、年末年始、蔵書点検期間
(平成28年度年間開館日数 283日)

(3) 貸出点数、貸出期間

貸出点数と貸出期間については、新図書館においても従来と同様とします。ただし、開館後の所蔵数増加や利用動向、利用意向を踏まえて、貸出点数の上限引き上げを検討します。

<現状> ・貸出点数、貸出期間

	貸出点数	貸出期間
図書	12冊（視聴覚資料を含む）	2週間
視聴覚資料	3点	2週間

(4) 職員体制

現状の職員体制は、館長を含め4名の職員で運営していますが、新図書館では、基本構想（案）へのパブリックコメントで要望があったように、新図書館でのサービス計画を行うために必要な図書館司書の配置を検討します。

また、新図書館のサービスを充実したものにするため、職員研修を持ち、必要な知識、技能の向上を図ります。

なお、基本構想では「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」の「参考資料（2）数値目標の例」による算出から5名を目標値にしています。

<現状> ・職員数 4名

館長（1名）－ 館長補佐（1名）－ 司書（臨時職員 2名）

※ 月に2日（土または日曜日）パート職員 1名あり

おわりに

平成 29 年度は、新図書館についての住民ワークショップ、パブリックコメントを実施し、新図書館のありたい姿を示す「基本構想」と新図書館整備の具体的な計画を示す「基本計画」を策定しました。住民ワークショップ、パブリックコメントでは、子どもから大人まで多くの住民の声が届けられ、新しい図書館について、みんなで考えることを大切にしてきた一年となりました。

今後は、平成 32 年度の新図書館開館を目途に、平成 30 年度には、住民から提案された意見を反映し策定した「基本構想」「基本計画」を新図書館の設計に活かし、平成 31 年度には、住民の思いが形や空間となって実感できる新図書館の建設を目指します。

<参考資料>

みんなで考える「私たちの新しい図書館」

○第1回 住民ワークショップ

日時 平成29年8月5日(土)

午後1時～4時50分

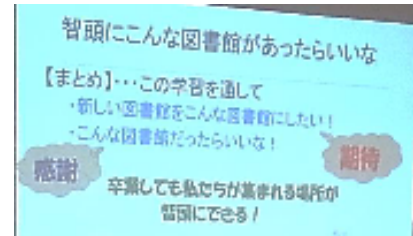
場所 智頭町総合センター 大集会室

参加者 35名(12歳～90歳)

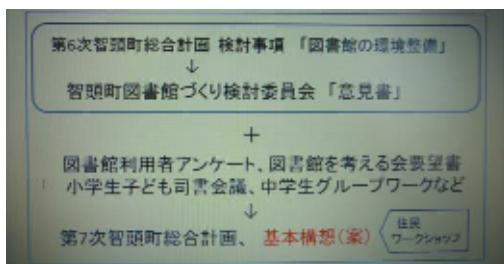
傍聴者 16名 合計51名

アドバイザー2名、事務局13名 総合計66名

- 内容
- ・智頭図書館整備基本構想(案)について
 - ・建設候補地について
 - ・中学生が考えた新図書館についての報告
 - ・まち歩き、地図づくり(グループワーク)



中学生による報告



みんなで考える「私たちの新しい図書館」



まち歩きで気がついたことを地図へ



グループごとにまち歩き

ワークショップ終了後、みなさんで



○第2回 住民ワークショップ

日時 平成29年12月3日(日)

午後1時～4時20分

場所 智頭町総合センター 大集会室

参加者 52名(11歳～90歳)

傍聴者 8名 合計60名

アドバイザー2名、事務局12名 総合計74名

- 内容
- ・新智頭図書館建設予定地について
 - ・第1回住民ワークショップの振り返り
 - ・基本構想(案)の「図書館のありたい姿」から新しい図書館の利用を考える



新図書館について利用ストーリーを作る

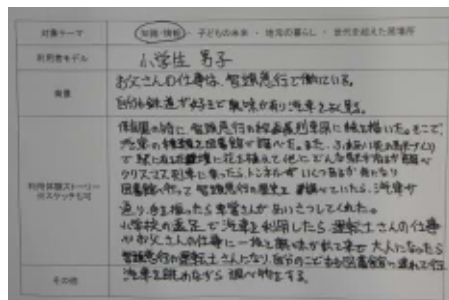


グループごとに話し合い、全体の場で発表する利用ストーリーを決める



グループごとの発表

参加者が作った
利用ストーリー



多くの子どもたちが参加(小学生1人、中学生15人、高校生3人)



<参考資料>

智頭町立智頭図書館の現状

(1) 平成29年度の智頭図書館の状況（実績は平成28年度分）

・参考として、同じ八頭郡内の八頭町、若桜町、県内で智頭町と人口規模が一番近い三朝町の図書館を併記します。

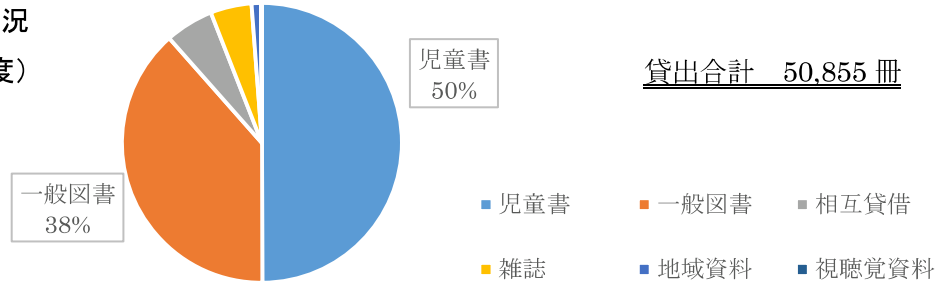
図書館名	開館年月	奉仕人口	専有延床面積	蔵書数	一人あたりの 個人貸出冊数	職員数
智頭図書館	平成16年4月 (昭和48年竣工)	7,523人	222㎡	46,060冊	5.2冊	4人 (+月2日 パート1人)
八頭町 郡家図書館	平成14年6月	17,911 人	535㎡	112,293 冊	4.1冊	5人
八頭町 船岡図書館	平成17年4月		295㎡			3人
八頭町 八東図書館	平成18年6月		445㎡			3人
わかさ生涯 学習情報館	平成16年7月	3,505人	747㎡	46,695冊	5.2冊	4人
町立みささ 図書館	平成2年7月	6,816人	727㎡	92,463冊	13.0冊	6人

※ 出所 鳥取県の図書館統計 平成29年度（平成28年度統計）鳥取県立図書館支援協力課
～奉仕人口は、平成28年1月1日現在の住民基本台帳による～

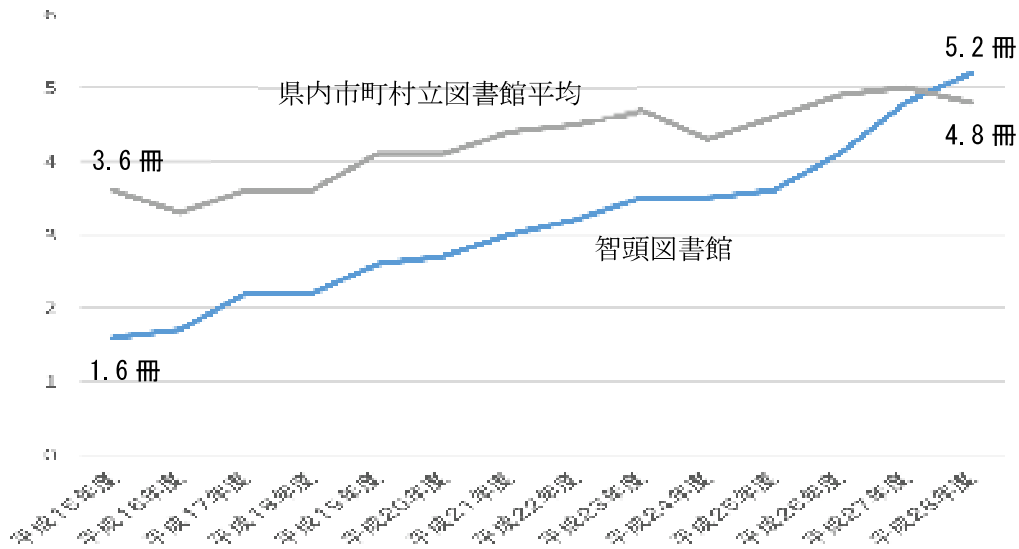
(2) 施設規模（智頭町総合センター内での使用面積）

2階図書館	144㎡
1階ロビー（雑誌コーナー、絵本コーナー、子育てコーナー）	22㎡
3階宿泊研修室（書庫）	56㎡
専有延床面積計	222㎡
（共用、借用部分）	
トイレ、事務室（図書館職員部分）、ロッカー室	54㎡
1階老人休養室（おはなし会、音読教室他使用）	43㎡
2階旧視聴覚室（作業室）	40㎡
1階ロビー（情報コーナー、閲覧コーナー）	23㎡
計	160㎡
合計	382㎡

(3) 資料別貸出状況
(平成 28 年度)

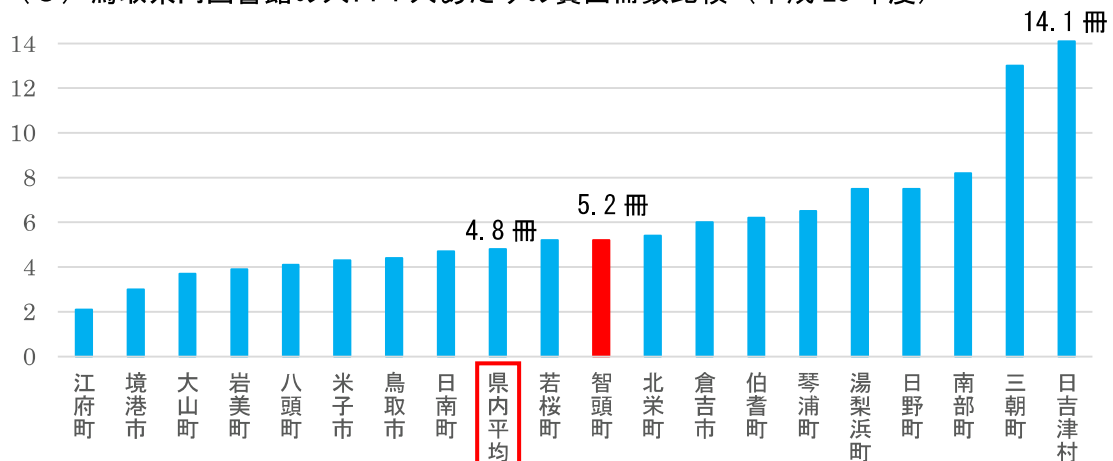


(4) 人口 1 人あたりの個人貸出冊数の推移



※ 人口1人あたりの個人貸出冊数値：出所 鳥取県の図書館統計 鳥取県立図書館支援協力課

(5) 鳥取県内図書館の人口 1 人あたりの貸出冊数比較 (平成 28 年度)



※ 出所 鳥取県の図書館統計 平成29年度 (平成28年度統計) 鳥取県立図書館支援協力課